



2016年度事業・業務がスタート！

若き職員リーダーたちの 想いと決意

次の10年。未来に向けて

次の10年。未来に向けて

職員体制も第3世代に移行します。今までの歴史の中核にいた職員もこの先5年、10年後にはいなくなる人もいます。いつまでもあると思うな「先輩」と「金」ではないですが、ここから先は我々次の世代の職員が担っていないといけないと思います。

時代に合わせて日々進化してきた常総生協。その中でもブレなかった「食は命」という理念。我々も新しい協同組合の形を模索していきたいと思っています。

新たに取り組み始めた岩瀬牧場との協同事業。最初はなかなか心を開かなかった岩瀬さんや、現場のスタッフの皆さんも今では、家族のように接していただけるようになりました。生産者と共に汗水たらして働く事で、「ものづくりへの姿勢」や、「信念」、「苦勞」が初めてわかります。そうして築いた関係こそが財産になっています。

また、常総市の水害の時は自分達で考え、行動し、たくさんの人たちと繋がり、協同で支援に入ることが出来、自分たちの地域をどうしていきたいか？どう寄り添っていくのか？地域をどう作ってきたいのか？をととも考えさせられ、良い経験になりました。まさに、自分たちが今後生協をどうしていきたいのか？を

伊藤 博久(事業責任 / 経営責任 / 商品政策)

問われているようでした。

私たち次の世代の職員は、未熟者で危なっかしい所もあると思いますが、いろいろな人とのつ

ながりや、ものの売り買いだけでない、支え合う協同の消費・生産・労働関係を目指し、地域生協として地域に根ざした活動や、商品を大切に発信していきたいと思っています。

簡単なことではありませんが、今までの先輩たちの土台を活かしながら進めていけば道は拓けると思います。そして、常総生協には素晴らしい組合員、生産者が沢山います。組合員と生産者をつなぐ役割が生協職員の仕事です。

先輩たちが遺してくれた常総生協の「食は命」という理念を大切に守り、新本部・配送センターを活かした取り組みで、さらに地域に協同を広めていく事が、託された我々の職務だと思います。次の10年後には、胸を張って50周年を迎えるように。



経営構造の改革に取り組んでゆきます 木内 和彦（経営 / 財務 / 総務担当）

2016年度は、組合員350名純増を目標に事業の経営構造の改革に取り組んで行きます。

諸先輩方が作り、築き上げた常総生協の理念を礎に、昨年掲げて中期計画を一つつつ形にし、地域に根差した協同組合を目指します。

組合員・生産者・職員が集える場所としての建設した新しいセンターは、組合活動、新

しい事業の活用し、また、地域とのつながり広めて行きます。

業務の効率化を図り、雇用環境の改善にも取り組みます。



未来へ繋げていきます

矢島 裕也（供給業務 / 地域拡大）

常総生協の{理念}大切にすること「食はいのち」。つまり地域に暮らす方々が安心して健康で過ごせる地域づくりということ念頭に置き、食卓の事業と活動をすすめつつ、年間650名の仲間づくりに全力を尽くします。

改めて、常総生協が根差した信念に基づき取り組んできた歴史、商品のこと、生産者と共に作り上げてきたものを地域に発信していきたいと思えます。

その上で、地域で行われるイベント催しに積極的に参加し、常総生協は敷居が高い、加入の入り口が狭いというイメージを拭い、

あの生協はなんかおもしろそうだというワクワク感、仲間に入りたくてと想っていただけるような雰囲気を作っていきたいと考えております。

組合員さんの声を形にし、より良い生協へ！どんなに困難であることも必ず乗り越え、組合員の皆さんと共にこれからの常総生協を未来へ繋げて行きます。



地域へ広げる一年に

榎本 木綿（協同推進室）

「協同推進室っていったいなにする部署？」
「きょうどうをすすめるって??」

いったいどんな部署だろうとみんながいぶかしがった昨年の総代会から一年を経て、今夏、協同推進室も二年目の幕開けです。

昨年は理事会運営の裏方から始まり、理事会主催の講座や学習会運営、40周年の記念式典や記念誌編集委員会、そして常総市を襲った大規模な水害や熊本・九州地震の被災地支援など、振り返ると様々な出来事に携わって参りました。

平坦な一年とは言い難い年でしたが、どの活動を通じて、たくさんの組合員の皆さん、生産者の皆さん、地域の皆さんとご一緒でき、常総生協ならではの協同の可能性もたくさん

垣間見えた一年でもありました。

この一年間の活動を通じて、すこしだけ協同推進室についてのご理解を皆さんにお伝えできたかなとも思われます。



昨年の「協同推進室っていったいなに？」という問い掛けを、今年は「協同組合っていったいなに？」という問い掛けに広げて、様々な活動を通じて皆さんといっしょに考え、動いて、地域へ広げていきたいと思えます。

信頼関係を大事にして

5月より商品を担当いたします。

「食はいのち」の要の業務に携わる部署になります。生産者・組合員、相互の信頼関係や協力関係が強まるよう、そしてより良い地域の環境が守れるよう努力をしていきます。

2016年度は①地産地消・有機農業の推進②組合員の手作り応援③組合員の多様な生活環境に寄り添った商品開発・商品提案・利用提案を行動の柱に取り組んでいきます。

上記の取り組みに当たっては今まで以上に生産者さんと組合員の交流の場を設けていきますので是非ご参加下さい。また組合員の要望やアイデアを活かした商品開発なども少しずつ進めていきたいと思っております。こちら是非お力をお貸しください。

また配達をしながら組合員さんの話を聞くと本当にいろいろな工夫をしながら生活のやりくりをしているのに驚かされます。特に台所にまつわる組合員の皆さんの工夫なども生協全

丸山 潔(商品部責任者)



体で共有出来るよう、商品案内の紙面の工夫などしていきたいと思っております。

また残念な事ではありますが、現状では食や環境にまつわる様々な問題点が私達を取り巻いています。しかも農薬、食品添加物や加工助材、その他化学物質などは私達が知らないうちに年々新たな進化(?)をしていきます。こうした事への調査・研究、そして私達が利用する商品への影響が無いよう監視をしていきたいと思っております。

商品部は私含めて5名の体制ですが、生産者の皆さん、組合員の皆さんのお力をお借りしながら、前に進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。お伝えできたかなとも思われます。

達成したら組合員みなでお祝いをしましょう

柿崎 洋(拡大数値責任)

2015年度は常総生協40周年を迎える事ができました。ひとえに、今まで支えていただいた組合員のみなさん、先輩職員、そして生産者みなさまのおかげです。感謝申し上げます。

2016年度は「年間650名のなかま作り」を重点目標としてスタートしました。この間、ご紹介による加入が少しずつ伸びてきています。感謝申し上げます。また職員の訪問による加入も少しずつ増えています。

役職員以下「全員参加」でなかまを増やしていく行動を今期は実施しますが、ぜひ組合員さんの周りにもできる範囲でのお声かけにご協力ください。「常総の〇〇おいしいよ!」の一言から大丈夫です。支援が必要でしたらすぐに駆けつけます。



際限なく規模を拡大しようとは考えていません。現在、3200名の組合員さんにカタログをお届けしていますが、まずはかつての5000名規模に戻したいと思います。そうすることで、現状よりも生産面や輸送面での負担も軽減されますし、商品開発も進めやすくなります。

まずは今年2016年は650人(純増350名)の仲間作りを達成させ、「5年後5000名」を合言葉に頑張ります。達成したら、組合員みなでお祝いをしましょう!

『常総生協らしさ』を大切に頑張ります！

井上元（生産と消費づくり担当）

2015年度はその大半を生産現場で過ごしました。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、商品部としての内勤業務から10ヶ月はなれ、土浦市の岩瀬牧場に出向していました。この間は生協の人から生産者となり、現場作業に明け暮れていたわけですが、今生協で行われている「産直」というものがすべてではないですが、表面的なものに成り下がっているのではとふと感じることがありました。

ただ単純に商品を産地から直接頂くから産直というのは、常総生協が目指す産直になっていないということです。

目指すところは、生協からの一方的な生産者への提案ではなく、何か取り組みを進めるに当たって、現場に生協がどこまで入り込んでいるかがポイントで、一緒にやりたいという気持ちが生産者にも伝わっているということが大切だということを感じました。



お互いがお互いの事を思いやり、気にしながら商品の取り組みを進めるべきであり、そこに本当の意味での産直が生まれてくるのだと感じました。

この経験を生かし、単純なモノの売り買いではない、気持ちが一緒に行き来する本当の産直運動を常総生協の共同購入を通して組合員が体験できるような生産者との関係づくりを進めていきたいと思えます。

常総生協に関わる生産者・業者・メーカーが組合員一人ひとりにとって「私の生産者」と思ってもらえるように、取り組み商品のすべてが「私のお気に入り」になるように、私に与えられた役割を担っていきたく思います。

『常総生協らしさ』を大切に頑張ります。

組合員による催し物案内 「親子で楽しみながら選挙を考えよう」 by 放射能から子どもを守るう関東ネット有志



イベント



この夏は参議院議員選挙があり、18歳選挙権がスタートします！日本は若者や子育て世代の投票率が低いといわれています。今の暮らしや子どもたちの未来をよくしたい。「せんきよこパッド」は、福島原発事故後、子どもを守りたいと思う母親（放射能から子どもを守るう関東ネットの有志）が立ち上げました。

暮らしを良くする方法…選挙や政治について、豆本作りなどの手作業しながら一緒に考えたり、話し合ったり、自分たちが描く未来に繋げていきます♪

豆本づくりとクイズで『せんきよこパッドフェスタ』

～親子で楽しみながら選挙を考えよう～

選挙のこと、意外によくわかってなかったりします。もっと、選挙を盛りあげていきたい。そこで、豆本をついたり、クイズに答えたり、楽しみながら、選挙について考えてみたいと思います。人気急上昇中、手のひらに乗る小さな本（豆本）を作ります♡

日時：6月5日（日）14:30～16:30（14:00開場）

場所：柏中央公民館 5階 和室2と3

参加費：一人 300円（材料費として）

問合せ・申込み：senkyoikonet@gmail.com

電話 070-1411-8339（サトウ）

※お名前、参加人数、電話番号（当日連絡がとれる）



今の暮らしをよくしたい！かえたい！
今週、関東ネットより、子どもと楽しみながら、
選挙や政治を身近なものに感じる
「豆本」のレシピを提供してくれました。



この活動は常総生協を通じて
COOP 共済「地域ささえあい助成」に申請中です。

熊本震災支援レポート【3】 熊本市の避難所へ

常総市水害に頂いた支援のバトンを熊本へ

○ 4/25 熊本市の避難所へ



熊本市に入る途中、甲佐町立乙女小学校に立ち寄り。現在のニーズを聞き取り、明日、必要物資を輸送することを伝えました。ちょうど、地域の方が1歳8か月の孫のために乳幼児用のミルクや離乳食がないか避難所に問い合わせにきたところだったので、支援物資の中から乳幼児用の食料品などを多めにお渡ししました。

いよいよ熊本市。南区にある雁回敬老園（養護老人ホーム）を目指しました。町内は家屋の瓦のほか、石垣や土壁などが激しく崩壊していました。敬老園には30名ほどの利用者がおられます。断水中のため上下水道が止まっており、水や運送用のタンクのニーズがありました。私たちが到着したとき、ようやく自衛隊の給水車が支援に入ったところでした。

ストック用の飲料水や感染予防のための次亜塩素酸水とともに、米や食料品や魚住農園の野菜や卵、無茶々園の柑橘果物を降ろしました。十日ぶりの生鮮品、とても喜ばれました。

次に、熊本市南区富合中学校へ向かいました。ここでは体育館が開放され、200名以上の被災者を受け入れています。他の避難所と併合され、まだ増員が予想されるとのことでした。

ちょうど休み明けの月曜で、お勤めを再開された方も多く、日中の避難所はがらんとしていますが、夜になってから戻られる方々がほとんどです。余震の恐怖から一時避難される方々も多いそうで、夜間ゆっくり休まることがないというお話も聞かれました。

熊本市内の学校も再開はGW明けがほとんどのため、ここでは避難中の中・高校生がボランティアで張り付いています。避難所内の清掃などを買って出てくれていて、降ろした支援物資もあつというまに運び込んでくれました。若い子たちが頑張ってくれている姿に、避難者の人たちも励みになっているように感じます。



中高生がボランティアで茨城からのお米や無茶々かんを避難所の中へ

別の避難所ではノロウイルスの集団発生があったとのことで、この避難所でも感染予防について気をつけ始めているとのことでした。体育館では空気の入替えなどがやりにくいので、こまめな殺菌などが必要です。今回は支援物資にそうした衛生品も多数用意して頂いたため、現地で役立つことと思われます。

続いて、熊本市南区富合小学校へ伺いました。つい先日まで400人もの被災者が避難していたそうですがいまは50名まで減少。連休明けからの学校再開に伴い、避難所の閉鎖が決定したため、富合中学校へ移動した方が多いとのことでした。

ここへも支援物資はたくさん届いてはいましたが、必要なものが必要な人に届いていないことも目当たりになりました。

90歳のお爺さんが避難されておられ、トイレが不自由なため、着替えが必要とのこと。体育館前の暗いロビーの片隅で一人で座ってらっしゃるところを見かけ、サイズ等を伺ったところ、「面倒を掛けて申し訳ない、申し訳ない。こんな年寄りが…情けない」と、声を押し殺して泣き出されました。身寄りがなく、市のヘルパーさんが時々様子を見に来られるそうですが、なかなかつらい状況でした。

必要な支援物資やサービスを、遠慮して口に出せない人もまだまだいるようです。しかし、お一人おひとりと向き合っ、お気持ちをお聞きするにはあまりにも人手が足りないことも痛感します。

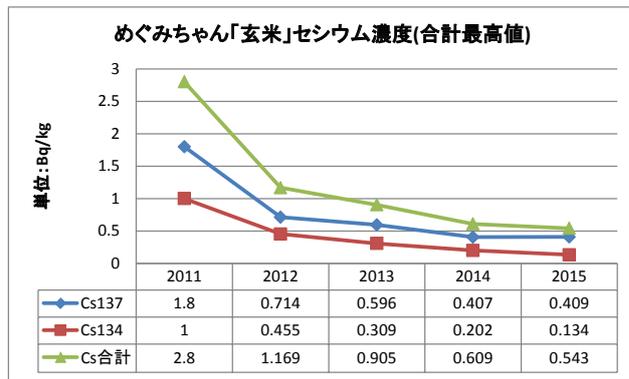
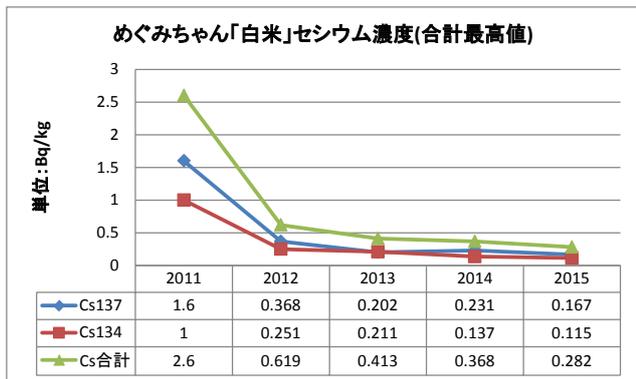
断水のため、生活用水を汲んで溜めていました。日中は市の職員や学校の先生たちが協力して避難所運営をしていますが、夜間は地域の婦人会が中心とのことでした。

ここは子どもたちが多くいたので、お絵かきなどの遊び道具と、ジュース類や野菜や卵をほかの支援物資と共にお渡ししたところ、たいへん喜んでいただきました。ビタミンが不足していたのでとてもうれしいです。炊き出し用に使いますと、感謝の言葉をいただきました。
(伊藤・榎本)

「熊本・九州支援 募金」受付 1口500円 OCR No. 474

主食コメほか、1ベクレル以下の検査 2015

【主食のコメ】事故5年が経過して、地場契約米（めぐみちゃん）で白米で0.3ベクレル/kg、玄米で0.5ベクレル/kg水準まで低下。



【1ベクレル以下の検査品目】

常総生協の商品以外も含めて、1ベクレル以下の検査の主なものは下記。

さつまいも、レンコン、大豆は微量。納豆は常時不検出に。たけのこは10ベクレル以下に。

部門	分類	食品名	産地	測定日	セシウム 137	セシウム 134
農産	果物	いちご	埼玉県狭山市	2015.5.11	不検出 <0.3	<0.3
		大玉すいか	茨城県つくば市	2015.6.25	不検出 <0.7	<0.8
	茎物	竹の子	埼玉県所沢市	2015.5.23	0.8	< 0.3
		竹の子	福島県田村市	2015.6.2	7.0	1.9
	根菜	たまねぎ	北海道中富良野町	2015.12.24	不検出 <0.4	<0.5
		人参	茨城県石岡市	2015.12.15	不検出 <0.6	<0.5
		じゃがいも	茨城県石岡市	2015.12.15	不検出 <0.6	<0.5
		れんこん	茨城県石岡市	2016.2.26	0.9	< 0.4
サツマイモ		茨城県かすみがうら市	2016.2.23	1.6	0.5	
水産	海藻	宮城県産生のり	宮城県東松島市	2015.4.12	不検出 <0.4	<0.3
		生めかぶ	宮城県石巻市	2015.1.12	不検出 <0.5	<0.3
		生わかめ	宮城県石巻市	2015.4.12	不検出 <0.6	<0.5
	貝	大和しじみ	茨城県 涸沼川	2015.8.20	不検出 <1.3	<1.3
	魚肉練製品	魚肉練製品	宮城県東松島市	2015.6.4	不検出 <0.3	<0.3
日配	大豆加工品	納豆	茨城県石岡市	2015.7.6	不検出 <0.0	<0.0
	調味料	手作味噌 (25年産大豆)	茨城県 常総生協	2016.1.7	0.6	< 0.5
飲料	飲料	飲用茶	埼玉県所沢市	2015.7.13	不検出 <0.3	<0.3
		人参ジュース	福島県二本松市	2016.1.22	不検出 <0.5	<0.4
農産乾物	農産乾物	乾燥大豆	千葉県	2015.12.8	不検出 <1.4	<1.3
		煮大豆 (26年産)	茨城県石岡市	2016.1.14	不検出 <0.6	<0.3
		青大豆	岩手県岩泉町	2016.1.28	不検出 <0.6	<0.5
		大豆	茨城県石岡市	2016.1.7	1.1	< 0.5
		大豆	茨城県石岡市	2016.1.7	0.8	< 0.5
		大豆	茨城県石岡市	2015.12.15	1.6	< 0.5
		平黒大豆	岩手県岩泉町	2016.1.28	不検出 <0.5	<0.6
米・穀類	米	27年産もち米	千葉県印西市	2015.9.8	不検出 <0.4	<0.3
		玄米 (27年産)	山形県高島町	2015.10.23	0.2	< 0.1
		玄米 (27年産)	千葉県成田市	2015.10.8	不検出 <0.4	<0.3
		玄米 (27年産)	千葉県芝山町	2015.10.8	1.1	< 0.4
		玄米 (27年産)	茨城県常総市	2015.9.26	0.4	< 0.1
		玄米 (27年産)	茨城県常総市	2015.9.30	0.2	< 0.1
		玄米 (27年産)	茨城県水戸市	2015.10.1	0.6	0.1
		玄米 (27年産)	茨城県石岡市	2015.12.24	2.7	0.7
		玄米 (27年産)	山形県高島町	2015.10.21	不検出 <0.1	<0.1
		白米 (27年産)	宮城県涌谷町	2015.9.9	不検出 <0.1	<0.1
		白米 (27年産)	茨城県常総市	2015.10.7	0.2	< 0.115
		白米 (27年産)	茨城県水戸市	2015.10.5	0.3	< 0.114
		白米 (27年産)	茨城県石岡市	2015.12.28	0.7	0.1
		白米 (27年産)	山形県高島町	2015.10.19	0.1	< 0.1
		白米 (27年産)	山形県高島町	2015.10.20	不検出 <0.1	<0.1
	白米 (27年産)	宮城県涌谷町	2015.8.14	不検出 <0.2	<0.2	
	白米 (27年産)	千葉県芝山町	2015.10.9	0.4	< 0.3	
	穀類	あわ (岩泉産)	岩手県岩泉町	2016.2.1	不検出 <0.3	<0.3
		えごま (岩泉産)	岩手県岩泉町	2016.1.28	不検出 <0.6	<0.5
		きび (岩泉産)	岩手県岩泉町	2016.1.28	不検出 <0.3	<0.3
たかきび (粒)		岩手県岩泉町	2016.1.28	不検出 <0.4	<0.3	
のし餅		千葉県印西市	2015.9.26	不検出 <0.4	<0.3	
のし餅		千葉県印西市	2015.10.8	不検出 <0.4	<0.3	
ひえ	岩手県岩泉町	2016.2.1	不検出 <0.4	<0.4		

ストロンチウム、トリチウム検査 2015

**生かき、あさり、めかぶ、しらすからはストロンチウムは検出されませんでした。
わかめからストロンチウムが検出されましたが再検査いたします。
トリチウムは微量ですが一様に検出されています。**

組合員から要望の強かったβ線内部被ばくにかかわるストロンチウム、トリチウムの検査を、いわき放射能市民測定所たらちね「βラボ」に依頼して実施しました。

生かき、生わかめ、生めかぶ（以上宮城県石巻市）、あさり（福島県松川浦）、しらす（茨城県沖）の5品を検査に出しました。結果は次の通りです。

		ストロンチウム 90		トリチウム	
		濃度±誤差	検出下限値	濃度±誤差	検出下限値
生かき	宮城県石巻市	検出下限値以下	0.24Bq/kg 乾	3.3 ± 1.7Bq/kg 乾	1.7Bq/kg 乾
あさり	福島県相馬市	検出下限値以下	0.25Bq/kg 乾	1.6 ± 1.6Bq/kg 乾	1.4Bq/kg 乾
生めかぶ	宮城県石巻市	検出下限値以下	0.15Bq/kg 乾	1.8 ± 1.0Bq/kg 乾	1.0Bq/kg 乾
生わかめ	宮城県石巻市	1.89 ± 0.35Bq/kg 乾	0.35Bq/kg 乾	1.4 ± 0.1Bq/kg 乾	0.1Bq/kg 乾
しらす	茨城県久慈浜沖	検出下限値以下	0.16Bq/kg 乾	(再検査)	

数字の単位に「Bq/kg 乾」と書いてあるのは、乾燥させた状態の1kg当たりのベクレル数です。

「生わかめ」は再検査の予定です。

福島原発事故で放出されたストロンチウム 90 はセシウム 137 の千分の1とされており、もしその割合であればセシウム 137 が 1800 ベクレル/kg ほど検出されるはずですが、生わかめからはセシウム 137 が検出されていません。測定上の問題か、それとも 1960 年代の核実験由来なのか調査中です。

東日本太平洋沿岸のわかめの対照区（コントロール）として、愛媛県産生わかめの検査を予定しています。2016 年度は、このわかめの再検査、いわし、ひじきの検査を予定しています。

【検査対象】

検査対象の方針は

- 1) 東電福島第一原発の溶融炉心に接触して核分裂生成物を含む汚染水が垂れ流されて、沿岸に沿って水流があることから、沖合より周辺沿岸部の海産物を対象とする。陸域へ飛散したストロンチウムがあり、東日本の土壌沈着のストロンチウムは文科省調査があるので、陸域から水系に流れ込む汽水域の食品・海産物を対象とする。
- 2) ストロンチウムがカルシウムと同じ挙動をすることから、カルシウムを多く含む海藻類、魚介類を対象とする。
- 3) トリチウム（三重水素）は生体分子に結合している「組織結合型トリチウム」を検出することとする。上記方針にもとづき、2015 年度は生産者の協力を得て上記の食品を選びました。

カルシウム含有量のもっとも多い「ひじき」については春の収穫のため、また福島～東北沿岸のひじきがないことから 2015 年度は検査せず、2016 年産千葉県房州産のひじきの検査を予定しています。また「芽ひじき」も愛媛県産・鹿児島県産の測定を予定しています。

【「トリチウム」って何？】

水素の同位体元素で「三重水素」と呼ばれます。トリチウムはベータ線を出してヘリウムに変わります。

地球の大気圏上層で宇宙線によって作られますが、人類史上、核開発によって核実験そして日常的に原発や再処理工場から放出されることとなった放射性物質です。原子炉では冷却水が2つの中性子を吸収してトリチウム（三重水素）になり、日常的に水蒸気または液体の状態で環境中に放出されています。

福島第一原発の汚染水でも問題となりましたが、水分子を作る水素がトリチウムと置き換わっても原子半径も同じで化学反応性も同じであることから除去できません。

水素は「水」をはじめあらゆる生物を構成する元素ですが、そこに放射線を放出するトリチウムが入り込んでいます。特に DNA 塩基対の結合は水素結合ですので、この水素がトリチウムに置き換わるとそこからベータ線を放出して DNA 損傷が疑われています。